



## Colgate-Palmolive 社: IT 最適化を戦略的な中心としてイノベーションを推進

### Overview

#### ■ チャレンジ

消費財を扱う有力なグローバル企業である Colgate-Palmolive 社では、複雑な世界市場における新たなビジネスチャンスに、より迅速で費用効果の高い方法で対処する必要に迫られていました。IT インフラストラクチャーの拡大やコストの増大を招かずに、ユーザー向けサービスレベルの拡張を実現することが課題でした。

#### ■ ソリューション

自社システムに対するワークロードや需要が増大し続ける中、Colgate-Palmolive 社は IBM と協力し、IT 環境のコストを管理および抑制する斬新なアプローチを生み出しました。同社では、SAP と IBM のテクノロジーを利用し、IBM の IT リソース最適化アプローチの導入によって IT 環境の最適化を実現しています。その狙いは、管理、アップグレード、運用の手間とコストを軽減しつつ、即応性の高い IT インフラストラクチャーを作成することです。仮想化、プロビジョニング、およびオーケストレーションの各テクノロジーにより、IT リソースとワークロードを最適化して利用効率を高めつつ、応答時間を改善しています。

#### ■ 効果

Colgate 社が従来よりも正確かつ効率的に IT 資産をビジネス目標に適合させていくうえで、IBM の IT リソース最適化アプローチは効果を発揮します。Colgate 社では、運用ワークロードが増大したにもかかわらず、前年比で約 10% という大幅な IT 運用コスト削減を達成しています。IBM のサーバーは、今まさにキャパシティが必要な部分に動的に再割り当てすることが可能であり、キャパシティへの過大な投資を Colgate 社が行うことなく、SAP ERP やビジネスに不可欠な他のシステムに対する予測不能な要求を満たし、社内と社外のユーザーに優れたサービスを絶え間なく提供するうえで有効な役割を果たしています。Colgate 社では、IBM の「オンデマンド」の理念によって、サーバーとストレージのインフラストラクチャーを必要に応じて拡大でき、IT リソース最適化アプローチへの長期的コミットメントにより、今後何年かにわたって財務上の節減効果と生産性の向上が期待されます。

#### ■ ソリューション製品構成

業種: 消費財メーカー  
アプリケーション: SAP® R/3® Enterprise  
ハードウェア: IBM eServer pSeries 690、p5 595、IBM BladeCenter® モデル JS20、IBM System Storage™ Enterprise Storage Server  
ソフトウェア: IBM AIX 5L™、Oracle、IBM Dynamic Infrastructure、IBM Tivoli® Systems Manager、IBM Lotus Notes®、IBM QuickPlace®、IBM Sametime®  
サービス: IBM Global Business Services

「競争の激しい消費財市場で活動するグローバル企業として、当社はビジネス・ニーズの変化に絶えず IT を即応させるうえで多くの課題に直面しています。当社は IBM と協力し、IT リソース最適化を大規模に推し進めた結果、IT 資産の利用状況、効率性、生産性を既に改善しています。」

Jim Capraro 氏 (Colgate Palmolive、Global Information Technology 担当ディレクター)

Colgate-Palmolive 社は、売上高 114 億ドルのグローバル企業であり、より健康で楽しい生活に貢献する消費財を 200 カ国以上の人々に供給しています。

多くの多国籍企業と同様に、同社でも低コストの生産者や模倣業者によって複数の課題が生じています。これらの競争相手に収益性の面で猛追されているため、成功するにはブランド開発を継続しつつ、容赦ないコスト圧力に耐えるしかありません。市場の脅威とビジネスチャンスに地域ごとに素早く対応する必要性と、集中化されたシステムがもたらす規模の経済。Colgate 社にとって、両者のバランスは微妙に維持されています。

同社では当初、1990 年代半ばに SAP ソリューションを選択し、Sun のハードウェアで SAP R/3 ソフトウェアを稼働させていましたが、最近になって IBM System p サーバーに切り替えています。300 箇所から約 2 万ユーザーがアクセスする中央システムには、モニタリングと管理を目的とした IBM Tivoli Systems Manager とともに、SAP アプリケーション、IBM Lotus Notes、Sametime、および Quickplace アプリケーションが配備されています。Colgate 社は最も革新的な企業の 1 つであり、より大きな価値を IT 投資から引き出して経営効率を高めることを追求しています。

Global Information Technology 担当ディレクターの Jim Capraro 氏は次のように述べています。「我々の使命は、イノベーションをさらに進め、コストを一定の水準に保つことです。例えば当社では、コンピュータ処理ワークロードは年間約 30% 増大し、ストレージ・ボリュームは年間 50% 増大すると予想しています。」

「そこで、この需要増大を効果的に管理し、ユーザーへのサービス目標を満足し、コストを引き続き削減するにはどうすればよいかという点が課題となります。当社では、98% の売上処理を SAP ソリューションで実行しています。この分野のインフラストラクチャーの最適化は、当社にとって重大な改善に相当し

ます。また、IT 資産を最適化し、より有効に活用することで、追加投資を最小限に抑えて最高水準の長期的な生産性向上を実現しつつ、当社の成長に従って全体のワークロードを増加させることができます。」

#### 仮想化による効率の向上

当初の SAP ソフトウェア導入環境では、SAP アプリケーションと物理的なハードウェアが 1 対 1 の比率で対応するという従来の構造が採用されていました。このような構造では、アプリケーションの成長に応じた柔軟性が乏しく、データストレージも同様の融通が利かない不便さを被ります。Colgate 社では、自社の IT システムが費用効果の高い迅速な方法でグローバル市場の動向に対応できないことを認識していました。

Jim Capraro 氏は次のように述べています。「特定のサーバーやストレージのハードウェア群をアプリケーションに結び付ける仕組みは、非常に制約の強い方法でした。というのも、成長に応じて以前よりも大規模で新しい装置を購入せざるを得なくなり、結果的にコストの上昇を招いたからです。孤立したストレージと処理能力の間にある障壁を取り除く方法を見つけ出すこと、そして、当社の需要をより効果的に満たし、総所有コスト (TCO) の引き下げにつながる方法で使用可能なリソースを活用することが課題でした。」

Colgate 社では、IBM および SAP と協力しながら、特定アプリケーションに対する物理サーバーの割り当てという制約を取り除くことで仮想テクノロジーがビジネスにどのように恩恵をもたらすかを検討しました。同社の希望は、その時々によって過剰な負荷がかかるか、ほとんど使用されないといったリソース使用状況の非効率さに対処することと、既に広範囲にわたり多様な要素から構成されていた IT 環境の複雑さを軽減することでした。

物理サーバーのコスト削減と管理コストの低下による節約効果は、長期にわたるITリソース最適化アプローチを次の段階へ進めることを可能にするとともに、Colgate社の最終収益に直接的な貢献を果たすと考えられます。

インフラストラクチャー担当ディレクターのJoe Pisciotta氏は次のように付け加えています。「新規のサーバー、ストレージ、アプリケーションのセットアップに要する時間は、業務運営に直接影響していました。特定のSAPアプリケーションの動作が中断した場合は、バックアップ・サーバーへの切り替えのために大量の手作業と多額の費用が必要でした。」

「当社では長期的な取り組みに着手し、パートナーとしてIBMを選びました。大規模なサーバー統合とITの簡略化作業を経た時点で、最初のメリットが既にもたらされています。現在は、IBM Dynamic InfrastructureによるIBM仮想テクノロジーの活用重点を置きながら次のステップへと進行しています。「IT資産とビジネス目標との整合性が最も高い水準で達成されるまで、ITリソース最適化に対する当社の取り組みは今後も続くでしょう。」

#### 変化する需要パターンへの柔軟な対応

Colgate社では、IBMのITリソース最適化アプローチの主要コンポーネントとして、SAPのAdaptive Computing ConceptとIBM Dynamic Infrastructureの双方を採用しています。これらは、より大きな柔軟性を同社のSAPソリューション・ランドスケープに取り入れ、総所有コストを削減するためのモデルとして利用されます。通常、初期のステップで中心となるのは、インフラストラクチャーの簡素化と、サーバー、ストレージシステム、ネットワーク資産の統合です。

以降の各段階では、新たなITランドスケープをより効率的に最適化および活用する先進的な仮想テクノロジーが利用され、その後のオーケストレーション段階では、高度な自動化が導入されます。ワークロード、パフォーマンス、予算

のニーズに即応するITサービスを保有し、ビジネス要件と密接に結び付いたインフラストラクチャーを構築するのが最終的な目標です。

Colgate社では、ソリューション・ランドスケープの効率を最適化して向上させるためにSAPアプリケーション用のIBM System pサーバーを導入し、POWER5テクノロジーを配備することによって、ITリソース最適化プロジェクトの初期段階を既に達成しています。同社は現在、アプリケーションとサーバーが1対1の比率で対応する環境から脱却し、基盤にある物理システムに依存しないで、アプリケーション間でコンピューティング・リソースとストレージ・リソースを共用することを可能としています。個別のアプリケーションが物理デバイスに結び付けられなくなったので、社内のリソースをより効率的に活用することが可能であり、IT運用環境のコストが軽減されています。

IBMのITリソース最適化アプローチは、SAPのAdaptive Computing Conceptを実現、補完、拡張します。そのため、SAPソリューションとIBMテクノロジーの双方を利用しているお客様が、より費用効果が高く、ビジネス・ニーズにより迅速に対応するキャパシティを備えたアプリケーション・ランドスケープを作成することを可能にします。SAPのAdaptive Computing Conceptは、それぞれのSAPアプリケーションを1つのサービスとして提供します。ビジネス・ニーズに応じてシステム・リソースの共用プールからサービスとして取り出して、事前定義したパフォーマンス・レベルを満たすように設計されています。

Jim Capraro氏は、次のように述べています。「従来、当社では特定の装置に重点を置いていました。例えば、あるストレージ・サーバーが満杯になってデータ容量を増やす必要が生じた場合には、新たな物理システムを入手するか方法はありませんでした。IBMのITリソース最適化アプローチを採用することで、必要なときに複数のシステムから予備のキャパシティの割り当てと統合

「ITリソース最適化に関するIBMのアプローチは、当社がコストをより厳密に管理し、ITサービスを調整してビジネスに正確に適合させるうえで適切な方法であると考えています。」

Jim Capraro氏 (Colgate Palmolive、Global Information Technology 担当ディレクター)

を行い、既存のリソースを最大限に活用できます。あらゆるサービスをいつでも起動できるようにして、当社の SAP 環境の柔軟性を最大限に高めることを目標にしています。」

### 事前の対応の推進

Colgate 社では、IBM System p5 および eServer p5 システム、IBM BladeCenter サーバー、IBM System Storage Enterprise Storage Server、IBM 仮想化ソフトウェアによって、あらゆる種類の IBM テクノロジーを導入しています。System p5 プラットフォームでは、SAP アプリケーション・データベースが稼働しています。それに対して BladeCenter サーバーでは、IBM AIX 5L の制御下ですべての SAP アプリケーションが稼働しています。

「当社の狙いは、イノベーションを進めるためにビジネスをサポートするとともに、それを低コストで実行することにあります。そのためには IT コストを増大させず、グローバルなプロセスを動的かつ柔軟にサポートできるように、社内のインフラストラクチャーを完全に仮想化する必要があります。SAP の Adaptive Computing Concept と IBM Dynamic Infrastructure を主要コンポーネントとする IBM の IT リソース最適化アプローチは、それを実現するための技術的な能力と管理戦略の双方を提供してくれます。」と Joe Pisciotta 氏は語っています。

Jim Capraro 氏は、さらに述べています。「事前の対策を進めて当社の競争優位のコアを担うことが IT 部門に求められていますが、これが課題の 1 つです。装置の管理に集中せずにビジネス上の優先事項に取り組みれば、お客様にご満足いただき、新たな市場に手を伸ばしてビジネスの成功に直接貢献できるようになるでしょう。」

### 仮想化の今後

Colgate 社の概算によると、プロジェクト開始以来、ワークロードが 15% 前後増大し、必要なストレージ容量が約 30% 増加している一方で、関連するコストの削減率はそれぞれ最大 70% と 60% に達しています。IBM の IT リソース最適化アプローチ全体では、SAP の Adaptive Computing Concept によって 30% ~ 40% のコスト削減が予想されるほか、IBM Dynamic Infrastructure によって約 60% ~ 70% のコスト削減が達成されるでしょう。

次のステップでは、IBM Tivoli ソフトウェアに深く根ざしたプロビジョニング機能を実装し、ビジネス・ニーズが生じたときに新たなサービスを自動的に作成できるようにする予定です。その後、プロセッサ、ネットワーク、およびストレージ容量の自動割り当て（オーケストレーションと呼ばれます）が実装され、手作業によるシステム管理の必要性がさらに軽減されます。

Jim Capraro 氏は、次のように結論付けています。「競争の激しい消費財市場で活動するグローバル企業として、当社はビジネス・ニーズの変化に絶えず IT を即応させるうえで多くの課題に直面しています。当社は IBM と協力し、お客様のニーズを満たす柔軟な IT サービスとともに、IT 資産の利用状況、効率性、および生産性の改善を既に実現しています。IT リソース最適化に関する IBM のアプローチは、当社がコストをより厳密に管理し、IT サービスを調整してビジネスと正確に適合させるうえで適切な方法であると考えています。」



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711  
東京都港区六本木  
3-2-12

[ibm.com/solutions/sap](http://ibm.com/solutions/sap)

IBM、IBM ロゴ、IBM System z、IBM System p、IBM System i、IBM System x、z/OS、z/VM、i5/OS、AIX、DB2、DB2 Universal Database、Lotus Domino、Tivoli、System Storage、WebSphere、および Enterprise Storage Server は、IBM Corporation の商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本ケース・スタディーは、あるお客様が IBM や IBM ビジネス・パートナーのテクノロジー/サービスをどのように利用されているかを紹介したものです。ここで述べられている成果や利点には、さまざまな要因が寄与しています。IBM は、これと同等の成果を保証するものではありません。本書に含まれているすべての情報は、本書で紹介されているお客様およびまたは IBM ビジネス・パートナーから提供されたものです。IBM では、これらの情報の正確性を実証していません。引用されているすべてのお客様事例は、一部のお客様が IBM 製品をどのように利用され、どのような成果を達成されたかを示しています。実際の環境コストとパフォーマンス特性は、それぞれのお客様の構成や条件によって異なります。

本書は一般的な指標としてのみ記述されています。掲載写真は、設計モデルを示すことがあります。

© Copyright IBM Corp. 2006 All Rights Reserved.



SAP ジャパン株式会社

本社 〒100-0004  
東京都千代田区大手町一丁目 7 番 2 号  
東京サンケイビル

© Copyright 2006 SAP AG

この文書で言及されている、SAP、SAP ロゴ、mySAP、ならびに SAP の他の製品およびサービスは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。